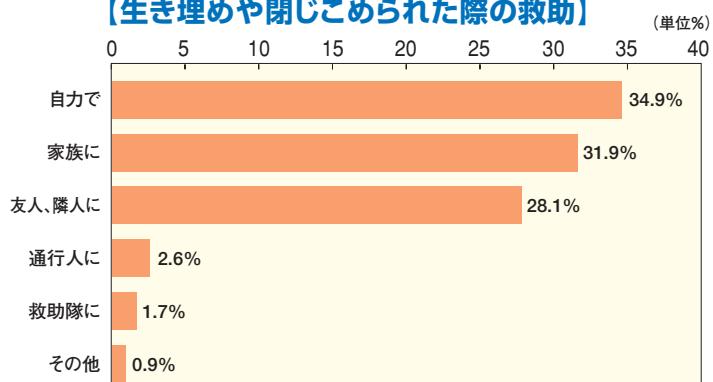


地域の防災活動に参加しよう

自主防災組織の役割

1995年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」では、救助された人（自力で脱出を含む）の約95%は自力でまたは家族や隣人によって救助されています。私たちの地域では、お互いに救助することができるでしょうか？また、協力して初期消火を行うことができるでしょうか？

【生き埋めや閉じこめられた際の救助】

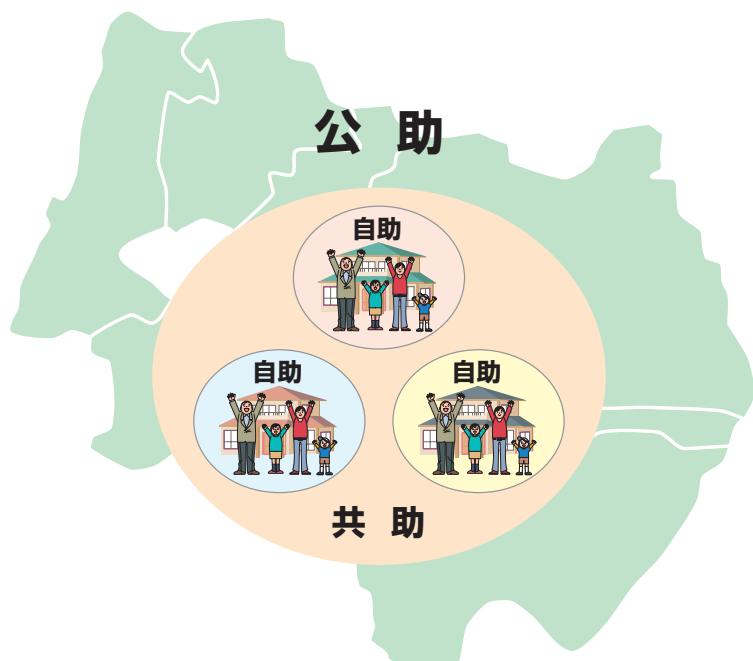


出典：(社)日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

自助→共助→公助

地震などの災害の際に、被害を最小限とするためには、消防機関などの公共機関の活動（公助）だけでなく、地域住民相互による援助（共助）や自ら身を守ること（自助）が不可欠です。

自主防災組織は、この「共助」のための中核となる組織で、かつ、「自助」を行う住民それぞれを直接・間接的に支える地域の基盤となるものです。



自主防災組織について

行政機関が把握し切れない地域の特性やきめ細かい防災活動を目指して、自主防災組織は作られます。お年寄りや要援護者がどこの家に住んでいるか、それらの方々をどのように安全な場所へ移動することができるかなどの具体的な情報を把握することです。

普段から地域に住んでいる人々や働いている人々の参加が基本となる活動です。隣近所の助けあいだけでなく、日頃からもしもの時に備え、具体的な役割分担を図りながら、地震などの災害が発生した際に、被害を最小限にできるよう準備を進める組織です。

【自主防災組織の機能構成例】

